

備後版

電子版なら他の地域版も読める
山陽新聞デジタル
<http://www.sanyonews.jp>

広島支社
広島市中区
土橋町7-1
TEL: 961-3725
FAX: 295-7870

福山支社
福山市
紅葉町1-1
TEL: 922-3035
FAX: 921-3753
府中市、世羅町
エリアのニュース
もお寄せください

東城支局
庄原市東城町
川西760-5
TEL: 2-0556

販売所
福山販売 923-2584
福山東・北 941-9076
手城 941-9076
福山西 941-9076
大門 941-9076
水呑田尻 956-5699
沼隈熊野 930-4254
鞆 987-0663
赤坂瀬戸・山手 951-5952
幸千 941-9076
松永 934-0508

福山市体験交流推進協 内海・沼隈の民泊事業1年

修学旅行生らで好調

福山市の沼隈内海商工会、内海町観光協会などでつくる「市うつみ体験交流推進協議会」が同町と沼隈町で民泊事業を始めて1年がたった。都市部の中学、高校の修学旅行生などをターゲットに、昨年度は国内外の10校が漁業や農業などを体験した。本年度も大勢の生徒が訪れ来年度の予約も好調な一方、受け入れ家庭の不足といった課題も残り、同協議会は地元へのPRを図っている。

(南原久人)

5月17〜19日、兵庫県のある野菜を見たのは初めて」は簡単ではなかった。これ

約220人が訪れ、58世帯に分かれて宿泊。底引き網漁やシーカヤック、手工芸の体験などに取り組んだ。

漁業や農業

約1畝の畑を持つ内海町の高田俊子さん(72)方には4人が宿泊。エンドウやレタスを収穫し、夕食で手巻きずしやスープ、サラダにして味わった。篠原琉太朗さん(14)は「栽培されてい



高田さん(右)に教わりながらエンドウを収穫する塚口中の生徒

受け入れ家庭不足課題

民泊事業を始めた。1泊2日と2泊3日がメインで、日帰りプランもある。漁業、農業、アウトドアなどから約40の体験プログラムを用意している。現在の受け入れ家庭の登録数は124世帯で、事業を始めた当初の71世帯から約1.7倍にまで増えたが、実際には当日の都合で協力できない家庭が目立った。

昨年度は5月末の開成高(東京)を皮切りに、中学、高校など10校約800人を受け入れた。12月にはオーストラリア、2月には台湾と海外の学生とも交流している。本年度もすでに塚口中を含め近畿地方の中学校4校が訪れ、10月にも神奈川県の高校の日帰り体験を予定。学校数は少ないものの、1回の生徒数が多いため計約840人を超える見込み。来年度もすでに6校約570人の予約が入っている。

「もちろん生徒全員に内海、沼隈を楽しんでほしい。来年度もすでに6校約570人の予約が入っている。目標を160世帯に広げ、PRポスターを作製するなどして受け入れ家庭の拡大を図っている。問い合わせは同協議会(084-9866-3561)。

PRポスター

事業は順調な滑り出しを見せた。しかし、受け入れ家庭の確保など課題も残った。1)。

具体的内容を議論

福山・鞆まちづくりビジョン

もがお年寄りを見守るのいいのでは」とを集約、整理して発表するほか、基本方針案

年ぶりだが、変わらぬ美しい光景で感動し「ホテルは6月下旬まで見られるという。(安河内誠)